

ふれあいのまちづくり協議会ヒアリングのコメント概要

<助成金額を一定額とすることについて>

- ・ 申請が楽になるので使いやすいのではないかと。 毎年集計する必要がなくなる。
- ・ 地域での発案を取り入れていく上で、毎年定額では協議会を発展させることは難しいと思う。
- ・ 最近高層マンションも建設され、人口は変動しやすいと思う。人口が増えて、助成金も増えると、活動も増やさないといけないのでしんどくなる。
- ・ 金額が今のふれまち助成より少なくなると負担になる。
- ・ 世帯数よりは前年度のふれまち助成の金額に合わせて欲しい。10 万単位で助成金下がるとしんどい。
- ・ 事業を増やしても減らしても毎年同じというのはどうかと思う。地域の活動が萎縮してしまうのではないかと。
- ・ 消費税が増税されると負担になる。

<助成金の使途を現在のメニュー以外の活動全般まで広げることにについて>

- ・ 自由に使えるのであれば良いと思う。
- ・ ふれまち助成のメニューにないサービスを助成できるのは良い。
- ・ 認知症対策も行っているが、ふれまち助成には該当しない。
- ・ 助成金の範囲内で活動するので対応できる。足りなければ協議会で稼ぐ方法を考える。
- ・ 活動の範囲が広がるのは良いと思うが、新しい活動は難しいので現状維持になると思う。
- ・ 使途が自由になると、自分たちで行事等を考えないといけなくなる。
- ・ 申請した回数ベースに年間行事を考えているので、細かく定められるとしんどいかもしれない。
- ・ 内部で助成金の割り振りに揉めるかもしれない
- ・ 声の大きい団体がお金を多く取ることになるかもしれない。

<助成金の繰越について>

- ・ 去年協議会の 5 周年記念で苦労したので、長期的に積み立てをできるのはありがたい。
- ・ 年度終わりに経費の仕分けをしており、繰越できるとありがたい。
- ・ 繰越すほどの余裕はない。
- ・ 積立するほどの大きな活動をするのがない。
- ・ どのような活動に使うのか分からない。
- ・ 会計としては一年で完結するので楽である。繰越だとずっと調整していかななくてはならない。

<将来的な計画策定について>

- ・繰越に伴って計画書を作成するのは当然必要だと思う。
- ・簡単な様式であればいいが、計画書にどこまで縛られるのか気になる。
- ・幅のある予定を受け入れてもらえるのであれば作成できるが、分量が多いと負担になる。
- ・地域の総意で、長期的な計画を考える機会がないので、結局は会計担当者だけで考えることになり、責任が重く負担に感じる。
- ・日頃の運営だけで精一杯で、新しいことを考える余力は無い。助成金の申請をやめて繰越金や参加費だけで活動を実施することも考えたが、申請していなかったら活動自体を止めてしまいそうなので申請をしている。
- ・大きな行事を計画しても途中で止めることになるかもしれないので難しい。高齢なので2, 3年後のことは分からない。

<事業ごとに必須活動を設けることについて>

- ・防コミの3つの助成条件は負担にならないので、必須活動にしたほうがいい。
- ・現在エコタウン活動を実施していないが、クリーン作戦でも良いなら実施できる。
- ・防コミを束ねてしまうと、ふれまち協の委員にも防コミ活動の了解を得ないといけなくなる。
- ・エコタウンは活動が細かいので3年前に止めた。防コミはふれまちとは別なので束ねられない。
- ・参加人数(下限)まで縛られるとしんどくなる。
- ・活動の枠は自由な方が良くと思う。協議会にやらせてみることも大事。

<その他補助金に関する意見>

- ・制度や様式を変更されるほうが手間になる。
- ・1年ごとにふれまち助成と新しい補助金を選択することは可能か。
- ・定額の備品の枠があると嬉しい。
- ・事務局に新しい人材を入れたいので、ふれまち助成に人件費を認めてほしい。

<その他ふれまち協議会の運営体制などに対する意見>

- ・新しいことをやろうとすると誰かの負担になる。若い人がいない分なおさら。
- ・使途の自由度が上がるからといって既存の活動は変わることはない。10年後も今のまま活動できるか不安。
- ・地福センターの管理当番も高齢化しており、最低賃金程度の手当てがないと2, 3年後どうなるか不安。いずれ地福センターも空き家になるかもしれない。
- ・地福センターの管理をボランティアでやっていると責任の所在がなくなるため危うい。月5万円でも人件費が必要ではないか。